

臨床美術学会 第12回大会 2021

開催要項

大会テーマ

臨床美術 ～作品世界とメッセージ～

2021年11月14日（日）



臨床美術学会

The Society for Clinical Art

臨床美術学会 第12回大会 2021

大会テーマ

臨床美術 ～作品世界とメッセージ～

日時 11月14日(日) 10:00-16:10 オンライン(ZOOM)開催

主催 臨床美術学会

共催 日本臨床美術協会 / 株式会社芸術造形研究所

大会長 木戸 修

開催趣旨

なぜ、臨床美術の作品はこんなにもエネルギーを発しているのでしょうか。臨床美術士と様々な方々との有機的セッションから生まれる作品群は、どれも光り輝き、満ち溢れています。これらは明らかに既存の美術教育や芸術作品とは性質を異にしているように感じられます。そこには、臨床美術の感性の解放を目的とした独創的なアートプログラム、参加者の能動的な感性や内的精神世界を引き出す臨床美術士の関わり、あるいは魂の表現といった生命の根源的課題に触れる核心的な問いがあると思います。

昨今、IT技術が飛躍的に革新するほどに、身体・感覚・精神を総動員して向き合う表現活動の必要性は、人が奥底から求める本能的な欲求であると再認識します。

2年ぶりとなりました本大会はコロナ禍、オンライン開催となりますが、改めて「臨床美術作品」を中心に据え、多角的な視点から臨床美術の本質的意義について、皆様とのディスカッションを深めて参りたいと思います。

臨床美術学会 第12回大会 2021 ご案内

開催日程 2021年11月14日(日) 10:00-16:10

開催方法 オンライン (Zoom) 開催

主催 臨床美術学会

共催 日本臨床美術協会 / 株式会社芸術造形研究所

大会長 木戸 修 (彫刻家 臨床美術学会長 日本臨床美術協会理事長 東京芸術大学名誉教授)

タイムテーブル

時間	内容
9:30～	受付 (Zoom)
10:00～10:10	開会式
10:10～11:10	基調講演 講師 宇野 正威 (臨床美術学会 顧問) 演題「内的精神活動を活性化する臨床美術」
11:20～12:30	シンポジウム「臨床美術作品が発するメッセージ」 座長 青木 一則 (東北福祉大学 准教授) シンポジスト 松田 弘 (東広島市美術館 館長) 水野 敏樹 (京都府立医科大学 教授) 山田 修市 (臨床美術学会 副学会長)
12:30～13:30	休憩
13:30～14:30	研究発表①(オンライン方式)
14:30～14:40	休憩
14:40～15:40	研究発表②(オンライン方式)
15:50～16:10	閉会式
16:30～17:30	交流会 (任意参加)

※プログラムは変更になる可能性がございます。

※インターネット環境を使い、オンライン (Zoom) での開催となります。

詳細は8ページをご参照ください。

11月14日(日) 10:10~11:10

基調講演

「内的精神活動を活性化する臨床美術」

講師 宇野 正威 (臨床美術学会 顧問)

美術家が展覧会へ出品する作品を制作する時、まずいくつかの素案を考えると
思う。その中から最も良い案を採用し、作品に仕上げる。素案を考えている段
階と、途中で新しくイメージを発展させる時、脳はどのように働くのか。

(1) 仕事を終えてほっとしている時、とりとめのないことを考えていることは
ないであろうか。これはマインドワンダリング(MW)と呼ばれる。実際には、
昨日から今日までに体験したことや、今日から明日にかけての予定を頭に浮か
べていることが多い。それらは自然に頭に浮かんでくるのである。

(2) 美術作品の素案をイメージするような場合には、意図的 MW と呼ぶ。“過
去”の体験を思い出し、近い“未来”の計画(如何に描くか)を考えている。
心の中で過去と未来の間の往復、心の時間旅行(メンタルタイムトラベル)を
しながら、素案をまとめる。これが内的精神活動であり、創造性の源である。

(3) 21世紀に入ってから、内的精神活動を担う脳の部位が明らかになってき
た。主に、脳の内側面にある、海馬から、後部帯状回を経て、前頭前野内側部
に至るデフォルトモードネットワーク(DMN)と呼ばれる神経ネットワークであ
る。よく見て、手を使って、洗練された作品に仕上げるのは、脳の外側面にあ
る、前頭葉と頭頂葉を含む中央実行ネットワーク(CEN)である。

(4) アルツハイマー病は初期から DMN の機能が低下しており、特に海馬の萎
縮が進行するので、MW の状態にある時、過去の体験・記憶の視覚イメージが
自然に浮かんでくることが少ないようである。アルツハイマー病の人は、つい
数年前まで活動的であった人も、何もしなくなる。意欲がなくなったのではな
く、何をしたらよいのか分からないのである。過去の体験が、時系列で頭に浮
かばないため、近い未来の計画を立てることが困難なのである。

(5) 臨床美術の場では、準備段階で彼らの記憶を刺激し、制作に入ってから
は数段階に分かれたプログラムと臨床美術士が、“今、此処”の体験と未来のイ
メージを往復する内的精神活動をサポートし、作品を完成する。美術活動中、彼
らは明るく、積極的で、充実感を感じているようである。

(6) 『現在』と『未来』の間の行き来を最大限生かし、内的精神活動を刺激、その
衰えを防ぐことは AD のリハビリテーション的価値を持つのではないかと考え
る。

〈プロフィール〉

宇野 正威 (うの まさたけ)

所属機関・職： 臨床美術学会 顧問

略歴

- 1960年 東京大学医学部医学科卒業
1961年 東京大学精神医学教室入局
1987年 国立精神・神経センター武蔵病院 部長
(1994年, “もの忘れ外来”を創立)
1998年 同病院(現; 国立精神・神経医療研究センター病院) 副院長
2001年 吉岡リハビリテーションクリニック(もの忘れ外来) 院長
(認知リハビリテーションとして“臨床美術”を行なう)
東北福祉大学客員教授, 日本臨床美術協会副理事長
2015年 メモリークリニックお茶の水(顧問医師)
日本臨床美術協会顧問
2020年 メモリークリニック退職

主な著書

『もの忘れは「ぼけ」の始まりか』(1997年, PHP新書036)

『「もの忘れ」の処方箋』(2003年, 「生活人新書」060, NHK出版)

『こころ輝く世界—アートセラピーを楽しむアルツハイマー病の人々』(2004年, 遙書房)

『認知症読本—発症を防ぎ, 進行を抑え, 地域で支える』(2010年, 星和書店)

『臨床美術: 認知症医療と芸術のコラボレーション』(2014年, 金剛出版)

『あきらめるな! アルツハイマー病』(2015年, 主婦の友インフォス情報社)

11月14日(日) 11:20~12:30

シンポジウム

テーマ「臨床美術作品が発するメッセージ」

座長 青木 一則 (東北福祉大学 准教授)

シンポジスト 松田 弘 (東広島市美術館 館長)

水野 敏樹 (京都府立医科大学 教授)

山田 修市 (臨床美術学会 副会長)

趣旨

臨床美術は、参加者の感覚や感情に訴えかけながら、個々の能動的表現活動を引き出すプロセスを重要視しています。完成した作品は一堂に展示し、作品の魅力や作者の個性などを尊厳を持って認め合い、共感・共有する「鑑賞会」の場を大切にしますが、個人の内面を読み解く分析も、美術の技術的指導を行うようなこともしません。

しかし、臨床美術のセッションから生まれる作品はどれも独特の魅力や輝きを放っていると感じます。それは臨床美術の理念、方法論、援助技術が参加者個人の感性を解放し、内なる表現の本質を引き出しているからではないでしょうか。

アートプログラムのそれぞれの工程の中で、作者が感じ、考え、選択していく意思決定のプロセスの集積により作品は成り立っていきます。更には豊かな表現を伸張していく臨床美術士の潤滑油のような働きも欠かせません。

臨床美術作品からは作者一人一人の個性も豊かに感じられますが、と同時に対象者群によって表現の中にみられる特性があるかと思えます。子どもの表現は発達段階との関係性が重要になりますし、認知症の方々の独特な表現、様々な障がい等と表現の関連性等について着目することは、臨床美術士の適切な援助のために重要となるかと思えます。

作品には、作者の表現中に起こった全ての思考、行為、要因、背景等が含まれているとも言えるでしょう。臨床美術士には存在論的人間観に基づいた作品理解とともに、これらを多角的に考察し、対象者の理解を深めることで臨床美術が持つ力を有効的に活用し、また専門職者としての質的向上へ寄与できるのではないかと考えます。

本シンポジウムでは、これまで詳細に語られることの少なかった「臨床美術作品」を中心に据え、それぞれ多角的な視点を持った専門領域の方々にご登壇いただき、表現者の内面や作品の表層、あるいは社会との関わりなど多岐にわたり議論を深めて参りたいと思えます。

11月14日（日） 13:30～15:40

研究発表（オンライン形式）

本大会では、本学会の趣旨に沿った臨床美術および周辺領域に関する内容（理論研究、実践研究、調査等）についての研究発表（オンライン形式）を一般募集します。

研究発表は、発表者が学術的な研究内容をパワーポイント等のプレゼンテーションツール（動画含む）にまとめ、発表します。

指定された時間の間、発表者は、オンライン画面共有にて研究内容を発表し、座長や参加者と直接的な質疑応答を行い、学術的な見識を深めたり、問題を共有化したり、参加者間の研鑽の機会とします。

また、発表者は研究発表論文概要へ論文掲載をしていただきます。

研究発表の申し込み方法については、8ページをご覧ください。

研究発表① 13:30～14:30

研究発表② 14:40～15:40

※研究発表申し込み題数により、分科会方式となる場合がございます。

11月14日（日） 16:30-17:30

交流会（任意参加）

本大会では、終了後に参加者間交流を目的とした交流会を開催します。

Zoom のブレイクアウトセッション機能を用いて小グループでの交流や情報交換をしていただき、臨床美術に関わる様々な話題についてコミュニケーションを図って頂く機会としていただければと思います。

開催方法 オンライン（Zoom）開催

参加費：無料

臨床美術学会 第12回大会2021 参加申し込みのご案内

1. 大会参加申し込み方法

(1)大会参加費（税込）

申込区分	参加費（事前登録のみ）
臨床美術学会会員	5,500 円
非会員	7,700 円
学生	3,300 円

※日本臨床美術協会のみにご所属の場合は、非会員の申込区分になります。

参加申し込みの際、臨床美術学会の会員登録の有無を今一度ご確認ください。

(2)各種参加・申込費

- ・研究発表申込（研究発表資料製作費として）：2,200 円（税込）
- ・交流会参加費（会員・非会員・学生共通）：無料

(3)申し込み方法

事前参加登録はオンラインで受付いたします。

臨床美術学会ホームページ「学術大会・イベント情報」ページ内にある参加登録ページにアクセスし、登録画面の必要事項をご記入の上、ご登録ください。

- ・ご登録いただきました E-mail アドレスに【自動返信】メールが届きます。
- ・後日、事務局より「参加登録受付」メールを返信いたします。

※メールが届かない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

事前参加登録申込締切：2021年10月22日（金）

注）本大会では、当日参加受付は行いません。

参加をご希望の方は、必ず期限までに事前参加登録をお願いいたします。

(4)お支払方法

お支払方法はゆうちょ銀行の口座へのお振り込みとなります。

参加登録申込後、ご登録いただきました E-mail アドレスに「参加登録受付メール」が届きます。お支払内容・振込先等をご案内しておりますので、ご確認ください。

各種参加費入金締切：2021年10月29日（金）

(5)参加申し込み内容の変更・キャンセルについて

大会参加費・研究発表参加費（研究発表資料製作費）は返金いたしませんので、予めご了承くださいませようお願いいたします。

また、事前参加登録申込後、各種参加費入金締切日までにお支払いがない場合は、キャンセル扱いとなりますので、あらかじめご了承ください。

(6)Zoom の招待 URL および研究発表概要送付について

入金締切後、ご入金を確認できた方に Zoom 招待 URL、および資料等をメールにて配信いたします。

メール配信日：11月5日（金）

(7)オンラインでの参加方法について

- ・有線 LAN または Wifi などインターネット接続環境が必要です。
- ・パソコンまたはタブレットなどの機器をご準備ください。
- ・事前に Zoom アプリをパソコンまたはタブレットにインストールしてください。
- ・研究発表者は、カメラ、マイクが必要です。

2. 研究発表（オンライン形式）申し込み方法

(1)申し込み方法

研究発表申込はオンラインでの大会参加申込時にご選択して頂く形で受付いたします。登録画面の参加オプション「研究発表タイトル・要旨」をご記入の上、登録してください。

研究発表申込締切：2021年 8月31日（火）

(2)研究発表受理確認

お申し込みいただいた発表内容は、大会本部にて確認させていただき「発表受理」となりましたら、研究発表代表者の E-mail アドレスに発表受理のメールが届きます。発表受理の E-mail が未着の際は事務局までお問い合わせください。

(3)研究発表論文概要原稿送付

研究発表論文概要原稿は下記 E-mail アドレスに PDF 形式のファイルを添付しお送りください。研究発表論文概要に関しては、誤字・脱字・変換ミスを含め、原則として事務局では校正・訂正を行ないません。完全原稿としてそのまま掲載されますので、送信者の責任において確認してください。また、送付締切り後の原稿の変更は一切できません。重要事項の記載漏れのないよう、十分ご確認ください。

作成時の詳細につきましては「研究発表論文概要原稿作成／送付要領」をご高覧下さい。

受付 E-mail アドレス：gakkai@arttherapy.gr.jp

研究発表論文概要原稿 送付締切：2021年10月11日（月） 15:00（必着）

3. 研究発表（オンライン形式）について

臨床美術学会設立以来、学会員や大会参加者も増加し、研究や実践フィールドも多岐に亘ってきています。本学会では、コロナ禍による感染予防のため、オンライン形式による研究発表を開始し、より多くの学会員、参加者の研究発表・交流の場を設けております。

● オンライン形式による研究発表とは

研究発表内容をパワーポイントなどのプレゼンテーションツール（動画含む）にまとめ、オンライン上にて、画面共有で資料を提示しながら発表する発表形式です。

（1）研究発表資格要件

研究発表代表者は、原則として以下のいずれかに該当する者とします。

- ①臨床美術学会会員
- ②日本臨床美術協会会員
- ③その他、臨床美術実践者等

*②、③の方が発表代表者となる場合は、必ず本学会会員が連名発表者で加わることが条件となります。

（2）研究発表に関する制限

発表代表者となる場合、1人1発表に限ります。

連名発表者となる場合は、複数の発表でも構いません。

発表する研究は未発表のものに限ります。

（3）研究発表申込とその受理

研究発表で発表する代表者は、指定された期日までに「大会事前参加登録申込」

「研究発表申込」「大会参加費および研究発表参加費の納入」を行なってください。

申し込み内容については確認いたします。なお、上記のいずれかに遅れや不備等があった場合、研究発表申込が受理されないことがあります。

(4) 研究発表論文概要への原稿の提出

発表代表者は、指定された期日までに研究発表論文概要の原稿を提出してください。

原稿の作成及び送付方法については、12 ページからの「**研究発表論文概要原稿作成／送付要領**」に従ってください。

(5) 研究発表方法

大会当日、研究発表代表者は、指定された発表時間に座長の指示に従って、Zoom にて画面共有でご発表ください。発表者の持ち時間は1題につき、発表12分/質疑応答3分となります。本大会では発表申し込み題数によって、研究発表① 13:30～14:30/研究発表② 14:40～15:40 に振り分けます。詳細は申込後、追ってご連絡します。

原則として、連名発表者も討議に参加するようにしてください。

(6) 研究発表データ作成について

研究発表データは、「研究発表論文原稿作成／送付要領」の内容に照らし合わせて、パワーポイントほか類似するプレゼンテーションツールで作成してください。映像、動画なども用いて構いません。参加者へ研究発表内容がより伝わるよう創意工夫をしてください。研究発表は発表者自身で PC 等を操作して行ってください。事前に必ず Zoom ミーティングにて画面共有が可能か、ご自身で動作確認をしてください。

(7) 研究発表の正式認定について

研究発表は、「①研究発表論文概要への原稿の掲載」、「②オンラインでの発表」、「③質疑応答への参加」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。「発表説明責任時間」の変更はできません。

(8) 研究発表申込から研究発表までの流れ

研究発表申し込み締切：8月31日（火）（学会 HP より）
↓
研究発表受理確認 メール発信：随時
↓
研究発表論文概要 原稿送付締切：10月11日（月）15:00 （メール提出）
↓
各種参加費納入締切：10月29日（金）
↓
研究発表論文概要 配信（当日参加 URL 配信）：11月5日（金）発表順を確認
↓
臨床美術学会 第12回大会 2021 研究発表：11月14日（日） 13:30～14:30 研究発表① 14:40～15:40 研究発表② 上記のうち、発表12分／質疑応答3分

研究発表論文概要 原稿作成／送付要領

研究発表論文概要原稿は、WORD等の文書作成ソフトで作成(A4、1枚に印刷されることを想定して作成)し、PDFファイル形式にて、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までお送りください。

ご希望の方には、基本レイアウトに沿ったフォーマットデータをお送りします。研究発表論文概要原稿を送信する際には、PDFファイル形式で作成しお送りください。論文は、送信されたPDFファイルをそのまま使用して作成します。原稿ファイルを送信する前に必ず印刷をおこない、文字化けや文字つぶれ等がないことをご確認ください。

なお、登録した原稿を修正(差替を含む)することは一切できませんので、ご注意ください。

原稿全般に関してご不明な点があれば、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までご連絡下さい。

(1) 用紙

- ・1題の研究発表につき、A4サイズ1ページに限る。

(必ず1ページに収めてください)

- ・横書きとして、背景は無地とする。
- ・上下左右各20mmの余白をとる。

(2) 原稿の作成

- ・ページ上部に、発表タイトル(副題)・発表者氏名(所属)を大きく示す。
- ・発表タイトルと発表者氏名(所属)の下からは2段組で本文を書く。
- ・図表は本文内に掲載し、図表が要旨集原稿の40%以下になるようにする。

(3) 「発表タイトル・発表者氏名(所属)」について

A.発表タイトル

- ・ゴシック系フォント・中央揃え・要旨集原稿の中で、最も大きいフォントサイズ(12~14pt)とする。
- ・発表申込み時の研究発表タイトル(発表タイトルにはサブタイトルも含む)を記載する。
- ・サブタイトルは原則として改行して記載しフォントサイズは発表タイトルのサイズより小さくする。

B.発表者氏名(所属)

- ・明朝系フォント・中央揃え・フォントサイズ(12pt)とする。
- ・連名発表者がいる場合、筆頭発表者の氏名の前に○印をつける。
- ・所属は氏名に続けてカッコ内に記載する。

(4) 本文について

- ・発表タイトル・発表者氏名(所属)下を1行あけ2段組で作成する。
段組の間隔は約2文字分あける。
- ・明朝系フォント・左揃え・フォントサイズ(10~10.5pt)とする。
- ・見出しをゴシックや太字にするなどして読みやすくする。

(5) 図表について

- ・図表にはタイトルをつける。複数の場合は通し番号をつける。
- ・本文中の図表数に制限はない。
ただし要旨集原稿に占める図表の面積は40%以下とする。
- ・印刷した際に見やすいものとする。

(6)書式

- ・書式については作成要領を守っていることを前提として、細部については発表者の判断に任せる。ただし、読みやすさを最優先して作成すること。

(7)その他

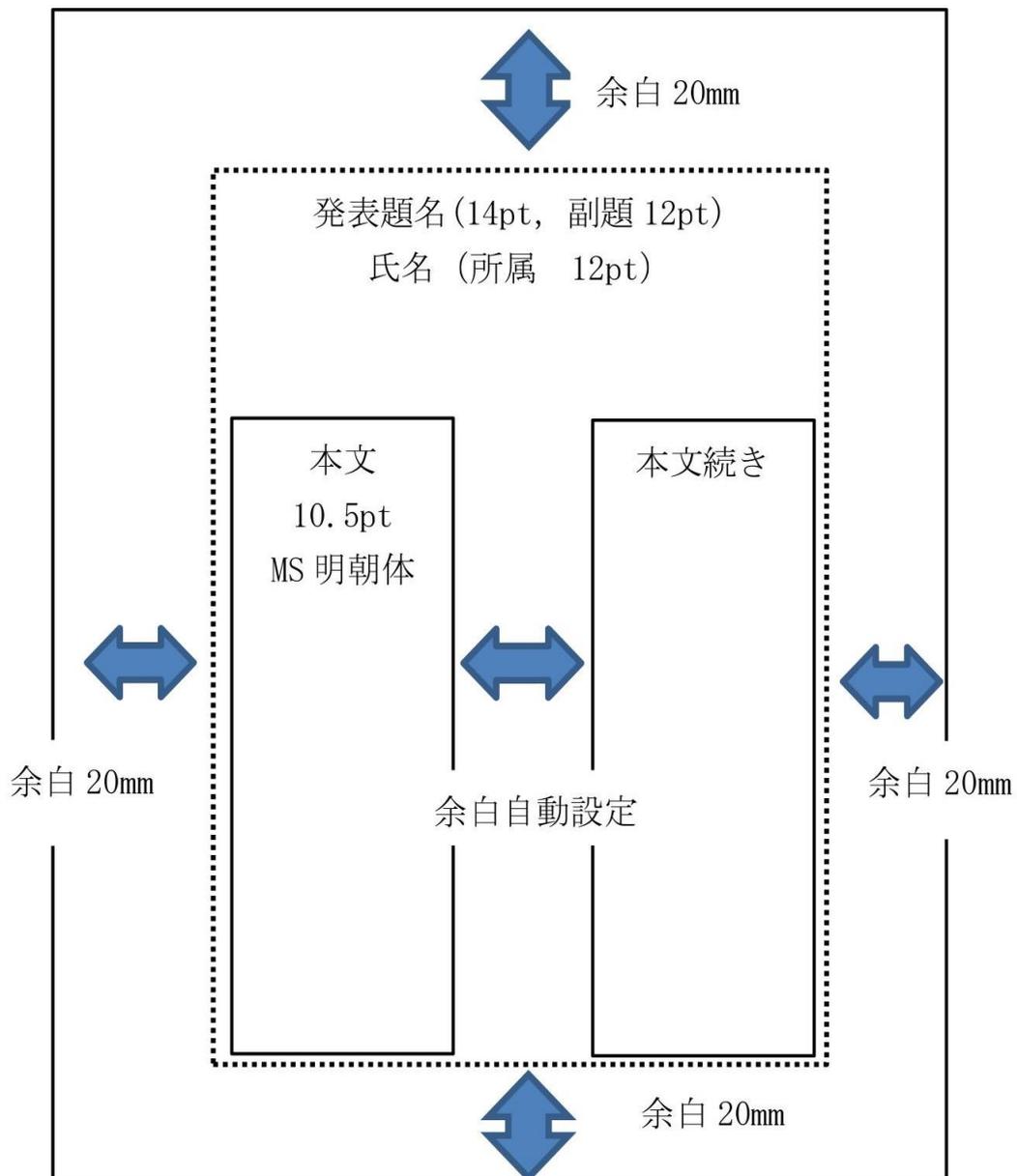
- ・原稿は所属先の研究倫理規定・倫理指針等に従い作成すること。
特に次の3点には注意すること。
 - 1 研究協力者がいる場合、事前に発表の承諾を取ること。
 - 2 研究協力者の人権に十分配慮していること。
 - 3 他の研究者などの文献から引用がある場合は出典を明記すること。

- ・原稿作成時、特に写真を用いる等の場合は、個人情報やプライバシーの保護に努め、
予め発表について対象者の了承を得るか、個人が特定できないように表現には十分留意すること。

原稿作成レイアウト

下記の図に従って作成してください。規定外の手稿は受理できませんのでご了承ください。
また、送付された手稿はそのまま印刷しますので、一度提出された手稿の修正、取り下げ及び返却はできませんので、提出の際は十分ご注意ください。

原稿作成レイアウト【図】 A4 1 ページ



【 お問い合わせ先 】

臨床美術学会事務局

〒251-0047 神奈川県藤沢市辻堂 1-9-3

Shonan Eminence 3F

電話番号：050-6861-7227

FAX 番号：050-3537-8633

Eメール：gakkai@arttherapy.gr.jp